

# 校長室の小窓から・・・

—No.13— 令和8年10月1日(木) 金光八尾中学校高等学校 校長 松井 祥一

## イントロを大切に

9月16日、金光藤蔭高等学校創立100周年感謝祭並びに記念式典に参列いたしました。生徒による決意表明や和太鼓演奏、新制服の披露など、子どもたちの生き生きとした姿が大変印象的でした。なかでも心に残ったのは校歌斉唱です。生徒や教職員はもちろん、多くの卒業生の方々が誇らしげに校歌を歌っておられました。ご高齢の卒業生の方々も力強く歌われる姿を見て、100年という長い歴史を支えてきたのは、一人ひとりの学校への深い愛情と誇りなのだと感じました。

私も以前勤務していた学校の創立150周年式典に出席した際、卒業生の方々が声高らかに校歌を歌われる姿に感動したことを思い出しました。校歌には建学の精神が込められており、在校生と卒業生を結び付け、学校の歴史を未来へと受け継ぐ大切な役割があるのでしょう。

金光八尾の校歌は、「戦争を知らない子供たち」で知られる杉田二郎氏の作曲です。フォークソング調の親しみやすいメロディーで、一度覚えると自然と口ずさみたくなる名曲です。ぜひ皆さんにも「My Favorite Song」の一曲に加えていただければと思います。

ところで、最近は「フォークソング」という言葉を耳にする機会が少なくなりました。フォークソングには、アコースティックギターの美しいイントロが印象的な曲が多くあります。かつてはイントロを聞いただけで曲名を当てる「イントロクイズ」が人気でした。一方で、最近のヒット曲にはイントロのないものも少なくありません。音楽配信サービスの普及により、短時間で聴き手の心をつかむことが求められるようになったことも理由の一つだそうです。

ある国語教科書の編集者は、この変化を現代のコミュニケーションにも重ね合わせていました。SNSやチャットが中心となり、挨拶や前置きを省いてすぐに本題に入るやり取りが増えているのではないかというのです。

確かに効率は大切です。しかし人と人との関係は、昔も今も挨拶から始まります。相手を思いやる一言や、心を開くための何気ない会話は、音楽でいえばイントロのようなものかもしれません。美しい曲に心を整えるイントロがあるように、毎朝、温かな挨拶から始まる学校にしませんか。

